

令和5年度を振り返って

教職センター長 佐伯 育郎

令和5年5月8日から、新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に引き下げられました。本学の教育実習、保育実習や介護等体験などの実習においては、実習時期の変更や代替措置の実施などもありましたが、少しずつコロナ禍以前の学修機会を得ることができるようになってきました。また、令和5年3月には教育学科1期生を社会に送り出すとともに、4月には5期生を迎え、新たなカリキュラムによる教育を開始いたしました。

令和5年5月31日には、文部科学省より公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施などについての方向性が提示されました。民間企業などの就職活動の早期化に合わせることで、従来から1か月程度早い6月16日を基準日として公立学校教員採用選考試験を実施する方針が示されました。教員不足を解消すること、優秀な人材を早期に確保することなどが主なねらいです。既に実施している自治体もありますが、従来の夏受験に加えて秋・冬受験といった複数回受験、一定の条件下での大学3年次受験も可能になります。本学においても、令和6年2月から3月にかけて実施する春季・教員採用試験対策チャレンジセミナーを例年より前倒しして開始するなど、公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施への対応を始めたところです。本学でも、冬試験に挑戦した学生も出てまいりました。

令和4年度から始まりました教職課程の自己点検・評価の実施も2年目となり、令和5年10月には本学ホームページにおいてその結果を公表いたしました。教職課程の自己点検・評価に際しまして、ご協力いただきました関係各位には心より御礼申し上げます。ご存知のように、令和3年5月に教育職員免法施行規則が改正され、令和4年4月より教職課程の自己点検・評価の実施が義務化されました。教職課程の質向上のために、各大学が自らの責任で教職課程の活動について点検・評価を行い、改革・改善に努めるとともに、その結果を社会に公表し、教職課程の質を自ら保証するという内部質保証体制を確立することがねらいです。自己点検・評価を通して、本学の独自性や優位性を再確認することができた反面、整理・整備が必要な点も明らかになり、改善を進めているところです。今後、各方面からのご助言・ご指導をいただきながら、教職課程の質の向上に向けた自己点検・評価に関する継続的な取組を続けていきたいと考えております。

令和6年3月